横浜医学，72，47-57（2021）

その他

がんと癌とで意味が異なるか
―医学用語の混乱を憂える―

藤　田　浄　秀

逗子病院　内科

Key words:　医学用語，がん，癌，癌腫，当用漢字

Ⅰ．緒　　言

腫瘍は，良性腫瘍と悪性腫瘍とに分類され，後者は癌cancerと呼ばれる．癌は，上皮組織系細胞由来の癌腫carcinomaと非上皮組織系細胞由来の肉腫sarcomaとに分けられる．癌腫の診断名は，舌癌・肺癌・胃癌・．．の様に「臓器名＋癌」で，あるいは扁平上皮癌・腺癌・．．の様に「組織名＋癌」で表記される．従って，悪性腫瘍の総称としての癌は「広義の癌」，癌腫の診断名としての癌は「狭義の癌」という事になる．

これは医学部において病理学で悪性腫瘍の講義が始まる際に最初に学ぶ事柄である．しかし，戦後我が国の漢字施策で制限色の強い当用漢字が定められ，「癌」が当用漢字に含まれていない為に，医学以外の行政・報道（新聞やテレビ）等では「がん」の使用を余儀なくされた．その為に医学では「癌」を，医学以外では「がん」を使用すると言う二本立ての状態がしばらく続いたが，次第次第に医学で「がん」も用いられる様になった．日本語では漢字と仮名とで意味の異なるものは一つも無いので，漢字の「癌」を仮名でがん，あるいはガンと表記してもこの枠組の変わらない事は，万人承知の事柄であると思われる．ところが三十年以上前から「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫を意味する」とする主張を，普段は見えない伏流水が時折地表に出現するかの如く時々漏れ聞き，具体的に何処で誰が主張しているのかを平成二十年頃まで懸命に捜したが筆者は知り得なかった．この度日本口腔腫瘍学会・日本口腔外科学会が学会として「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫を意味する」と定義している事を知り[1]，また病理学の成書[2, 3]でも同様の定義を見出した．この定義に対しては日本癌治療学会[4, 5]が再三否定的見解を明らかにしている通り，正当な根拠は無く，医学用語の混乱をもたらすのみと思われる．

そこで筆者は，「がん」と「癌」との関連について，戦後我が国の漢字施策がもたらした当用漢字による漢字制限と必然的に生じた仮名書きの強制の歴史的観点から「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」の因って来る所以（ゆえん）を明らかにし，この定義が不適切である事を糺したい．

Ⅱ．本稿執筆までの経緯と執筆理由

筆者は，平成十八年三月まで横浜市立大学医学部の口腔外科学講座（大学院顎顔面口腔機能制御学）に所属していたが，定年退職と共に口腔外科から足を洗い内科に転向した．口腔外科から足を洗ったものの，名誉会員に送られて来る日本口腔腫瘍学会誌には目を通していたが，余りにも用字用語の乱れがひどいと思われたので，具体例を指し示して平成二十二年四月に編集委員会宛に御手紙を差し上げたところ委員の御一人から直筆で御回答を頂いた．狭い口腔外科界の事であるのでよく存じ上げている親友の教授（以下仮にA教授とする）であった．回答は数項目に渡ったが，その中の一つが「『口腔癌』と書けば口腔粘膜由来の扁平上皮癌か小唾液腺由来の腺系癌の『癌腫』のみを指します。一方『口腔がん』と書けば『肉腫』を含め口腔外科領域の悪性腫瘍全てを含む意味を持ちます。それ故『国立がんセンター』をはじめ日本各地の『がんセンター』は平仮名の『がん』となっており、白血病等を含めすべての悪性腫瘍を治療するセンターである事を示」すであった．尚，その前年には日本口腔腫瘍学会発行の口腔癌診療ガイドラインの完成に尽力された由であった．

藤田浄秀，神奈川県逗子市桜山四丁目１番20号（〒249-0005）逗子病院　内科

表１　質問票

もし仮に、「がん」が悪性腫瘍の総称であり「癌」が癌腫を意味意味するとしたならば，以下の質問にはどのようにお答えになるでしょうか.

①日本癌学会・日本頭頸部癌学会・日本肺癌学会・日本胃癌学会・．．等は、癌腫のみを研究する学会なのか.

②「癌の臨床」「癌と化学療法」．．等は癌腫だけを対象とする学術誌なのか.

③学術書の表題が「抗がん薬」と「抗癌薬」とでは，内容に違いがあるのか.

④子どもが「癌」の漢字が分からなくて「がん」と仮名書きしたら意味が変わってしまうのか.

⑤舌がん・喉頭がん・甲状腺がん・胃がん・大腸がん・前立腺がん・．．等は，よくみられる診断名であるが，これらは癌腫と肉腫との両者を含んだ診断名なのか.

⑥かたかなでガンと書いたらどうなるのか.

⑦「癌」に仮名が振られて「癌（がん）」あるいは「癌(がん)」と記載されたとしたら，その意味するものは悪性腫瘍の総称なのかそれとも癌腫なのか.

⑧国語辞典・医学事典・医学用語辞典・．．等に平仮名検索あるいはローマ字検索するものがある.「がん」の掲載頁を確かめて「癌」の項目にたどり着いた際には悪性腫瘍の総称，それとも癌腫のどちらを意味するのか.

⑨「がん」と「癌」との違いを，講演や学会発表を耳で聞いて常に区別できるのか.

「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫の意味」とする主張は，特に耳新しい事ではない．三十年以上前から漏れ聞いていたし，日本癌治療学会が早くからこの主張に否定的見解を明らかにしていた[4]ので知っていた．しかし，それは口腔外科とは何ら関係の無い遠い領域の極く少数の医師が時に言う事であり，口腔外科医の中には皆無と考えていたのでA教授の御手紙には大いに驚いた.

筆者には納得不可能な主張であったので，「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」を前提にすればどうしても答えに窮する質問表（表１）を作り，日本癌治療学会の1991年発行の用語集[4]のコピーを同封し，幾つかの質問事項を添えて回答を求めた．質問表（表１）は，当時のコピーは残っていないので記憶を辿って作成し，表中の③は今回追加したものである．質問表に対する回答は無かったが，日本癌治療学会の用語集[4] Ⅳ.[2] 用語（図１）に対しては，文頭では「がん，癌，cancerは同義」と書いてあるが文末において「平仮名の『がん』は（中略）すべての悪性腫瘍を意味し，」と書いてあるとの手紙を寄越した．それに対しては「前半が大事な趣旨で、後半は～であるが～でないと否定する文章であって、A教授の主張を是認する事は出来ない」と反論すると共に，悪性腫瘍の総称に「癌」を用いている学術書や学術論文のコピー多数を何回か送った．これらを見出すには大した苦労は無かった．それでも，A教授は近況や将来の夢について語っては呉れたが「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」の誤りを認めて呉れない．一度直接電話で話したが埒が明かず，「全国のがんセンターは『がん』を用いている」を繰り返すのみであった．それなりの反論はあったと思うが詳細は思い出せない.

そうこうするうちに「『抗がん薬』の本はどれを見ても癌腫・肉腫の治療薬の両者が載っている」と反論が来た．それに対しては「抗癌薬」も「抗がん薬」も内容は両者全く同じで前者が癌腫の治療薬だけを取り上げているわけではないと述べると共に，癌腫であるのに拘わらず舌がん・肺がん・胃がん・．．等と記載してある成書・論文，癌に関係する一般向けの本，果ては週刊誌に至るまでわんさとコピーを送り，「先生は明確に反論出来ていない。がんも癌も同じ意味だ。いい加減に誤りに気づき二度と『がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫』は口にすべきではない。」と書き送り，議論を中止した．「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」は有り得ない主張なので，何れ誤りに気づいて呉れる事を期待した．いくら了解可能な資料を送っても明確な反論は無かった．反論出来る訳はない．「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」と，仮名と漢字とで意味が異なる事は有り得ないからである.

令和二年四月に，某大学の同窓会報で口腔外科学講座新任教授（以下仮にB教授とする）の御挨拶を偶然目にした．教授新任挨拶にも拘わらず，６代目の．．．と算用数字が使用され，口腔がん・抗がん薬の様な交ぜ書きも認められた．丁度その頃筆者は，漢数字と算用数字の混用[3]，交ぜ書きと書き換え等を巡る日本語表記[4]について拙文を書いていたので，自己紹介・御挨拶を兼ね，特に深い意味は無かったが「算用数字」「交ぜ書き」が少し気になる旨を書き添えて別刷をお送りした．数日して御返信を頂いたが，全く予期せぬ事に「医学用語として『癌』は上皮細胞由来の悪性腫瘍を意味し、『がん』はすべての悪性腫瘍を意味するものとして、近年両者を区別して表記することを推奨する流れがあり、今回の表記は問題ないかと存じます。」と書いてあった．A元教授の主張と同じである．驚いて早速元教授二名，現教授二名に問い合わせた．結果は，某学会理事長も務められた元教授は癌＝がんとの回答であったが，他の三（元）教授はA元教授と同じ考えであった．こんなに多数が誤った考えを持っているとすれば，個人が偶々考え付く事ではなくて，歯科大学（歯学部）における誤った教育の結果か，あるいは学会主導の考えの反映かもしれない．「口腔外科界が大変な事になっている」と書いて親友のA元教授に御手紙を出し，その後の経緯を訊いてみると同時に，漸

2　がん，癌，癌腫，cancer，carcinoma

がん，癌，癌腫，cancer，carcinomaの用語を用いる際は，以下のことに留意して使用することが望ましい。

がん，癌，cancerは同義で，上皮性，非上皮性を問わずすべての悪性腫瘍を意味する。癌腫とcarcinomaとは同義で上皮性の悪性腫瘍の意味である。肉腫に対応する言葉として，癌腫という用語が用いられる。ただし臓器名，組織名の語尾に癌という用語がついている場合（たとえば胃癌，腺癌など）には，癌腫を表す。また上記の意見に対し，平仮名の「がん」は白血病なども含めてすべての悪性腫瘍を意味し，漢字の「癌」は上皮性悪性腫瘍を意味するものとして，両者を区別して書く考えがあるが，音声上両者を区別し難い難点がある。

図1
日本癌治療学会用語集（1991年）文献4）より引用.

くコロナ禍による営業自粛要請解除で書店が再開したので，店頭で口腔癌診療ガイドライン 2019版[1]を見たところ，第二章　疫学に「口腔がんは顎口腔領域に発生する悪性腫瘍の総称である．病理組織学的に口腔がんの90％以上は扁平上皮癌であり，（中略）最も頻度が高い扁平上皮癌を『口腔癌』として述べる」と書かれていた．要するに，日本口腔腫瘍学会と日本口腔外科学会は「がんは悪性腫瘍の総称」「癌は癌腫」と定義している事を知った．

その後，A元教授から御手紙を頂いた．

「決して『大変なことになっている』訳ではありません。近年では『がん→悪性腫瘍の総称』『癌→癌腫』と使い分けられていることが多く」「医学の慣用となっているのは間違いありません。」と言い切り，「医学的にも一般社会的にもこの様な使い分けをしている」と断言している．しかし，医学の慣用には決してなっていないし，医学的にも一般社会的にもこの様な使われ方はほとんどなされていない．

平成二十二年にA教授が手紙の遣り取りを中断したのは「先生（筆者）が御自身のお考えを変えられないだろうと思ったから」である由である．けだし卓見である．

筆者の考えは日本癌治療学会の見解と完全に一致していたので，確かにどの様に説得されても変更しなかった事であろう．しかし，ただ単に意見を言うだけではなく，具体的に多くの資料を提供して「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」は当を得ていないと述べたのであるから，虚心坦懐に吟味して欲しかった．

インターネットで検索した「がん」と「癌」の違いのコピーを自説補強の為に送って呉れた．情報リテラシーとしては発信者は誰か，個人か学術団体か，個人だとしたら信頼できる専門家か，発信目的は学術目的か，単なる興味本位か，他の情報と矛盾しないか，情報の根拠がしっかりしているか，等を判断し選択して活用する事が重要である．ある用語が仮名と漢字とで意味が異なり「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」は興味を引き，情報が拡散しやすいというバイアスも考慮するべきである．しかし，驚いた事に，送って頂いたコピーの中身は，発信者が理学部出身の免疫研究者であったり，御自分の影響を受けているかもしれない歯科口腔外科を標榜する開業医であったり，名の知れない団体であったりと，一次資料でなく三次資料であった．悪性腫瘍の用語を決めるのは病理学者や癌研究に従事している医学者である．しかし，それらのコピー中に国立がん研究センターのがん情報サービス資料も含まれていたのでⅥ．で言及する．

B教授と各（元）教授には質問票（表1），日本癌治療学会用語集[4]・がん診療update[8]・今日の治療指針2016年版[9]のコピーを添えて筆者の意見を伝えたところ，B教授並びに二人の（元）教授から考えを変更する旨の御返事を頂いた．「舌がん」と表記した投稿論文で編集委員会から「舌癌」に改める様指導されたという情報，少なからぬ歯科大学（歯学部）では口腔癌診療ガイドライン[1]の定義が教えられている情報も寄せられた．更にB教授からは日本癌治療学会用語集2013年版[5]のコピーやその他の資料を送って頂いた．

具体的根拠を示して論理を尽くせば分かる人には分かる事を確信したので本稿を執筆する事にした．その目的の為に，戦後の当用漢字による漢字施策によって当用漢字に含まれない「癌」が使用出来なくなった経緯を先ず明らかにし，次いで「がんセンターが『がん』センターなので悪性腫瘍の総称は『がん』だ」と着想した事は短絡的であった事を述べ，そこから導き出された定義「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」は根拠の無い事を明確にし，最後に「医学的にも一般社会的にもこの様な使い分けをしていることは念頭に置かれる必要がある」と断言しているので，紙幅の都合上必要最小限に止めるが，そうなってはいない事を示す文献を引用する事とした．

「がん」「癌」が，医学的にどの様に使用されているかの詳細は稿を改めて検討したい．

特定化学物質健康診断の項目の改正（14）

12 コールタール	
分　類	第2類物質　管理第2類物質　特別管理物質
有害性	発がん性（肺がん、皮膚がん）、皮膚疾患（労基則別表第1の2）
発生状況	コークス又は発生炉ガス製造工程における業務による肺がんの労災認累計数は280例余り、皮膚がんは若干例である。

図２
特定化学物質健康診断項目から抜粋（産業医研修会資料）
「発がん」「肺がん」「皮膚がん」の様に総て「がん」である．

身体障害者福祉法第１５条に基づく医師の指定に関する申し合わせ事項

（３）平衡機能障害の医療に関係のある診療科名
　耳鼻いんこう科、小児耳鼻いんこう科、気管食道・耳鼻いんこう科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科

５　指定障害区分について
　指定は、原則として一人１障害区分とする。
　ただし、「心臓と呼吸器」「聴覚・平衡と音声・言語・そしゃく」「じん臓とぼうこう・直腸」「ぼうこう・直腸と小腸」などのように、両障害に関連性のあるものについては、二つの障害区分を担当することを認める。

図３
身体障害者福祉法十五条指定医審査基準から抜粋
「いんこう」「そしゃく」「じん」「ぼうこう」と仮名書きである．

Ⅲ．戦後の漢字施策と「がん」

「日本は戦争に負け、『国語はやめよ。ローマ字で綴れ』という進駐軍の要請を受けた。しかし、それは一足飛びにそうもなりません、というのでしばらくの間漢字を使わせて下さい、と言って当用漢字を作った。『当用』というのは、『当座』という意味ですよ。それをなんと勘違いしたか『当ニ用フベシ』と漢文訓読され、義務教育の上でそれを義務づけて、これ以外の漢字は用いてはならぬ」こととなった[10]．非常に制限色の強いものであり，行政・公的性格の強い報道等の忠実な対応が求められた．振り仮名は原則禁止であった．

対応策としては，１）書き換え，２）交ぜ書き，３）仮名書きであり，以下の通りである．

１）書き換え
洗滌（せんでき）→洗浄　肝腎→肝心　繃帯→包帯　哺育→保育
蛔虫→回虫　畸形→奇形　骨骼→骨格　障碍→障害
食慾→食欲　顚倒→転倒　鞏固→強固　終熄→終息

２）交ぜ書き
飛まつ　処方せん　ひ尿器　血ぺい　涙せん　歯が
口がい　じん臓　いん頭　こう頭　こ関節　ほ乳類
だ液せん　うつ病　きゅう覚　ちょう付　きゅう歯
き頭　がっ骨　ざ骨　覚せい剤　閉そく　被ばく

３）仮名だけによる表記
がん　しゅよう　かいよう　こうそく　ねんざ　ほお
いんこう　ひじ　ひざ　せきつい　つめ　まゆ　はん

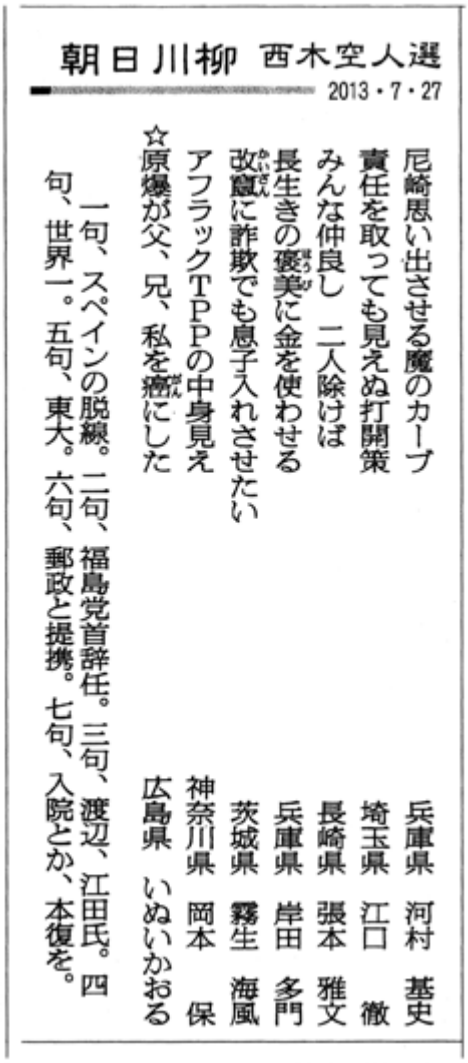
書き換え・交ぜ書きで対応出来なければ残された策は仮名書きしか無いので当然この様になる．

当用漢字は内閣総理大臣によって告示・訓令されたものである．内閣総理大臣の発言に対して官僚が如何に行動するかは，昨今の一連の文書改竄その他で，我々が嫌という程経験している事である．この様な状況で漢字「癌」を使用して癌センターとする事を役人が考え付く事なぞ有り得ない．当然がんセンターであった．がん対策基本法（平成十八年）・がん登録等の推進に関する法律（平成二十五年）等の様に法令では今でも「癌」でなく「がん」が用いられている．

行政が当用漢字に含まれない癌の使用をさけて「がん」とした令和二年の五規則改正による健康診断項目の改正－特定化学物質健康診断の項目（産業医研修会資料）の抜粋を示す（図２）．悪性腫瘍の総称としての癌も癌腫の癌も共に「がん」と表記されている．また，当用漢字に含まれない「咽喉」や「咀嚼」「腎」「膀胱」を避けて「いんこう」「そしゃく」「じん」「ぼうこう」を使用して今日に至っている身体障害者福祉法（昭和二十四年）十五条指定医審査基準等の抜粋を示す（図３）．

以上の例から，当用漢字に含まれない漢字を行政が使用しなかった事を十分理解して頂けるだろう．

漢字制限によって最も困った事の一つは，地名・住所・氏名の表記であった．地名・住所・人名は当用漢字で総てを表記する事は不可能であり，交ぜ書きでは対応に限界が有ったので，公的機関は片仮名と算用数字とを用いて住所・氏名を記載して打開を図った．我々は一時期役所から来る書類の住所・氏名が片仮名と算用数字とで記載されていた事を記憶しているのではないか．その厳しい漢字制限の歴史の名残は今でも残っている．

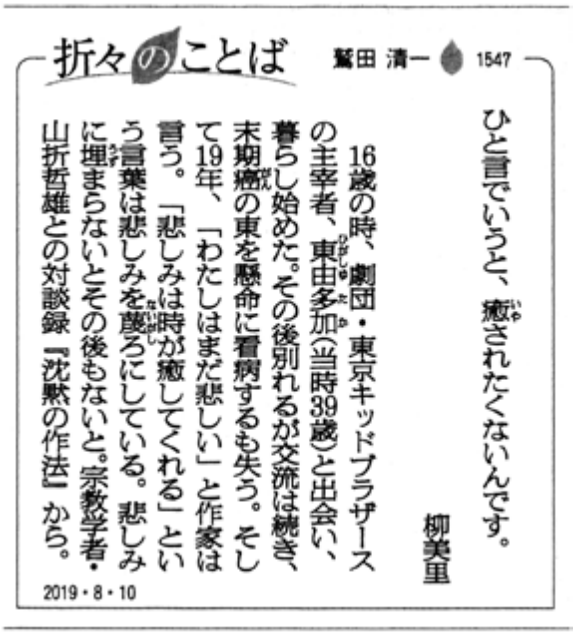


朝日川柳　西木空人選
2013・7・27

尼崎恩い出させる魔のカーブ　兵庫県　河村　基史
責任を取っても見えぬ打開策　埼玉県　江口　徹
みんな仲良し　二人除けば　長崎県　張本　雅文
長生きの褒美に金を使わせる　兵庫県　岸田　多門
改竄に詐欺でも息子入れさせたい　茨城県　霧生　海風
アフラックTPPの中身見え　神奈川県　岡本　保
☆原爆が父、兄、私を癌にした　広島県　いぬいかおる

一句、スペインの脱線。二句、福島党首辞任。三句、渡辺、江田氏。四句、世界一。五句、東大。六句、郵政と提携。七句、入院とか、本復を。

図 4
朝日川柳（2013・7・27）
褒美・改竄と共に癌にルビが振られている．



折々のことば　鷲田清一　1547

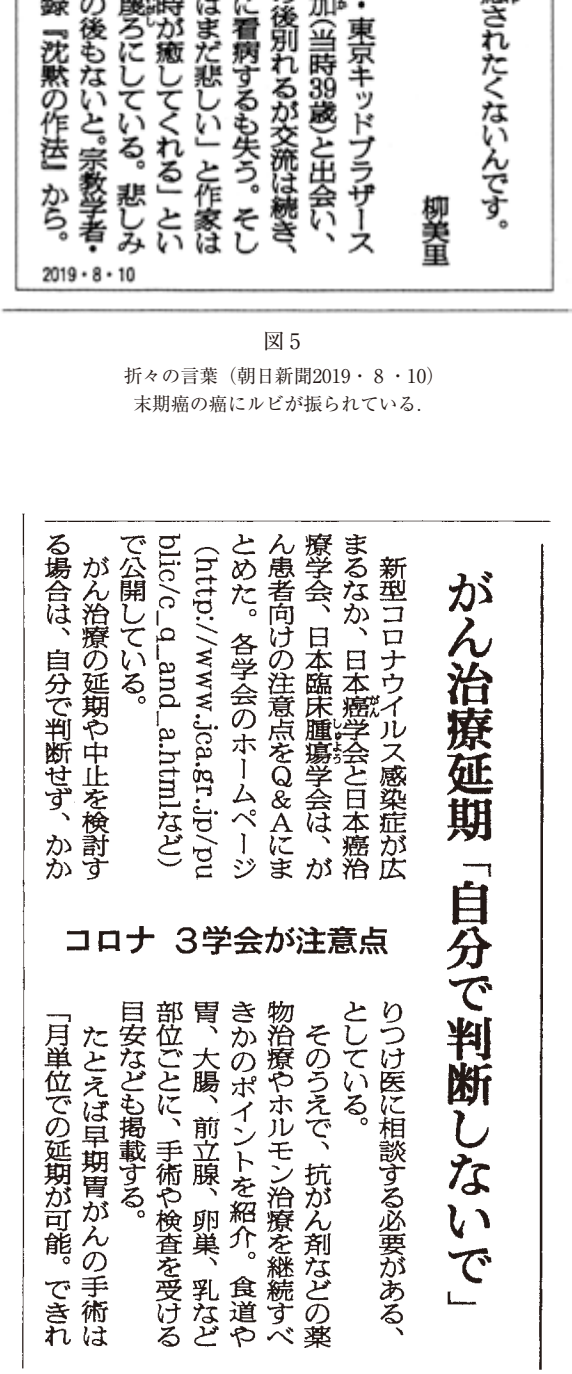
ひと言でいうと、癒されたくないんです。

柳美里

16歳の時、劇団・東京キッドブラザースの主宰者、東由多加（当時39歳）と出会い、暮らし始めた。その後別れるが交流は続き、末期癌の東を懸命に看病するも失う。そして19年、「わたしはまだ悲しい」と作家は言う。「悲しみは時が癒してくれる」という言葉は悲しみを蔑ろにしている。悲しみに埋まらないとその後もないと。宗教学者・山折哲雄との対談録『沈黙の作法』から。

2019・8・10

図 5
折々の言葉（朝日新聞2019・8・10）
末期癌の癌にルビが振られている．



がん治療延期「自分で判断しないで」

コロナ　3学会が注意点

新型コロナウイルス感染症が広まるなか、日本癌学会と日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会は、がん患者向けの注意点をQ&Aにまとめた。各学会のホームページ（http://www.jca.gr.jp/public/c_q_and_a.htmlなど）で公開している。

がん治療の延期や中止を検討する場合は、自分で判断せず、かかりつけ医に相談する必要がある、としている。

そのうえで、抗がん剤などの薬物治療やホルモン治療を継続すべきかのポイントを紹介。食道や胃、大腸、前立腺、卵巣、乳など部位ごとに、手術や検査を受ける目安なども掲載する。

たとえば早期胃がんの手術は「月単位での延期が可能。できれ

図 6
朝日新聞（2020・5・15）
固有名詞の癌にはルビが振られ，
新聞社独自の記事では仮名のがんである．

現在の感覚では地名・住所等は大目に見ても良いのではないかと思われるかもしれないが，当用漢字制定後は絶対に従わなければならない政策であった．行政機関は忠実に当用漢字による制限を守った．更にその一例を挙げておきたい．昭和二十二年に東京の向島と本所との両区が合併して新しい区が誕生した．その際，隅田川に因んで隅田区としようとしたが，「隅」が当用漢字に含まれない為に不可能で，発音が同じで当用漢字に含まれている「墨」を採用し，現在の墨田区が誕生した．荒川に因んで荒川区が，江戸川に因んで江戸川区が有るが，隅田川に因んだ隅田区が無いのはひとえに当用漢字による漢字制限の為であった．

「がん」「癌」を論ずる筈の本稿が，この様に当用漢字に関してくどくどと論述する理由はただ一つ，当用漢字による漢字施策下では漢字制限がいかに強く，その為に当用漢字に含まれていない「癌」は「がん」と記さなけ

ればならなかった為に「がん」センターとなった経緯を正しく理解して欲しいと願う故である．

昭和も遠くなり制限色の強い当用漢字による漢字施策を体験していない世代にこの事実を理解して頂く事は必ずしも容易ではない．

それにも拘わらず，当用漢字の時代（昭和二十年代～昭和五十年代）にあっても行政から独立していた医学は当用漢字以外の漢字も守った．戦後の医学書には，癌ばかりでなく腫瘍・潰瘍・捻挫・梗塞・脊椎・口蓋・顎骨・臼歯・唾液腺・咽喉・股関節・腎臓・亀頭・血餅・嗅覚・貼付・剝離・鬱病・覚醒剤・涙腺・処方箋・斑・．．等（下線を付した漢字は平成二十二年に初めて常用漢字になった）が用いられた医学書で学ぶ事が出来た．もし当用漢字による制限に従って医学書が書かれていたとすれば交ぜ書き・仮名書きで表記された医学書で学ばなければならなかったのである．先輩諸兄の勇気と努力と見識に敬意と感謝の意を表したい．

Ⅳ．報道における「癌」「がん」の取り扱い

癌は当用漢字に含まれていなかったし現在でも常用漢字に含まれていない．従って，報道（新聞やテレビ）等では，文学作品・著作物等の引用文中に含まれた癌（図４，５）や日本癌学会のような固有名詞（図６）にはルビを振って「癌（がん）」と表記するが，報道機関独自の記事では多くの場合「がん」と仮名書きされる（図６）．「癌」は褒美や改竄等と同様にルビを振る対象となる漢字であり，不特定多数の読者を想定する新聞社独自の記事では通常仮名書きである．日本癌学会　市民公開講座「研究が切り拓くがん治療最前線」が十月三日に広島市で開催され五人の専門家が講演をしたが，朝日新聞は総て「がん」を用いて報道している（2020年10月27日）．「がん」と「癌」とを論じる場合，学術，特に医学では「癌」が用いられて来たが，医学以外では「癌」が当用漢字に含まれていないと言う理由で「がん」が用いられて来たという戦後の国語表記の歴史的背景と理由がある事をしっかりと押さえておく必要がある．

筆者が学生であった昭和三十年代は，「家庭の医学」や医学的内容を扱う書籍や雑誌はまだ数少なかった為に，医学では「癌」を，医学以外では「がん」を使用する事が截然として二本立てとなっていた為に，医学書の「癌」と一般書の「がん」をはっきり相対化して眺める事が可能であった．筆者は将来「癌」と「がん」との使い分けに混乱が生じるとは夢にも思い至らなかった．しかし，時代が下って現実的には考えられない混乱が生じた．

Ⅴ．なぜ「がん」センターなのか

全国のがんセンターは，「癌」が当用漢字に含まれない為に「がん」センターと表記される事になった．悪性腫瘍の総てを対象とするがんセンターの「がん」は，紛れもなく悪性腫瘍の総称を意味する．

しかし，だからと言ってA教授が学術的に悪性腫瘍の総称は平仮名の「がん」で表記すべきと結論づけた事は短絡的であった．医学では悪性腫瘍の総称を意味する漢字の「癌」が以前より存在し広く使用されて来たのである．従って，「癌」は悪性腫瘍の総称であるが，「がん」も悪性腫瘍の総称であるから「癌＝がん」なのだ，「癌」でも「がん」でも両者共に悪性腫瘍の総称なのだと結論づけるべきであった．

Ⅵ．文献による「癌」と「がん」との検討

紙幅の都合上，文献は必要最小限に止めるが，下記文献を見て頂ければ医学では「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」とはなっていない事を御理解頂けるであろう．

日本癌学会

日本癌學會発行の学会誌 癌 第三十九巻第一号（昭和二十三年）の表紙を示す（図７左）．“GANN”The Japanese Journal of Cancer Research Vol.39 №1, 1948の副題が付いておりFounded by K.Yamagiwa and continued by M.Nagayoと記載されている．単純計算すると明治四十三年創刊と思われる．続いて，これが改名されたGANN Vol.50 1959, 副題 The Japanese Journal of Cancer Research 癌の表紙を示す（図７右）．これは更にJapanese Journal of Cancer Research（Gann）と改名し，今日のCancer Science, Formerly Japanese Journal of Cancer Researchに繋がっている．明らかにcancer＝癌である．「がんは悪性腫瘍の総称」とは合致しない．

日本癌治療学会

用語・ICD-11委員会は，「癌に関する用語の共通する理解による正確な記述と意思の伝達を目的として，1987年に最初の用語集を学会誌22巻10号に掲載した．その後1991年[4]，2004年，2007年，2010年に改訂版を出版した．その後新たに用語を追加して改訂し2013年版[5]としてホームページに掲載した．それによると「がん，癌，cancerは同義で上皮性，非上皮性を問わずすべての悪性腫瘍を意味する。」とし，用語　癌幹細胞（cancer stem cells）の説明文中では「がん細胞」「がん幹細胞」が，用語　癌検診（screening for cancer）の説明文中では「がんの死亡率」と「胃がん，肺がん，．．」が使用されている．すなわち「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」とは全く合致しない．

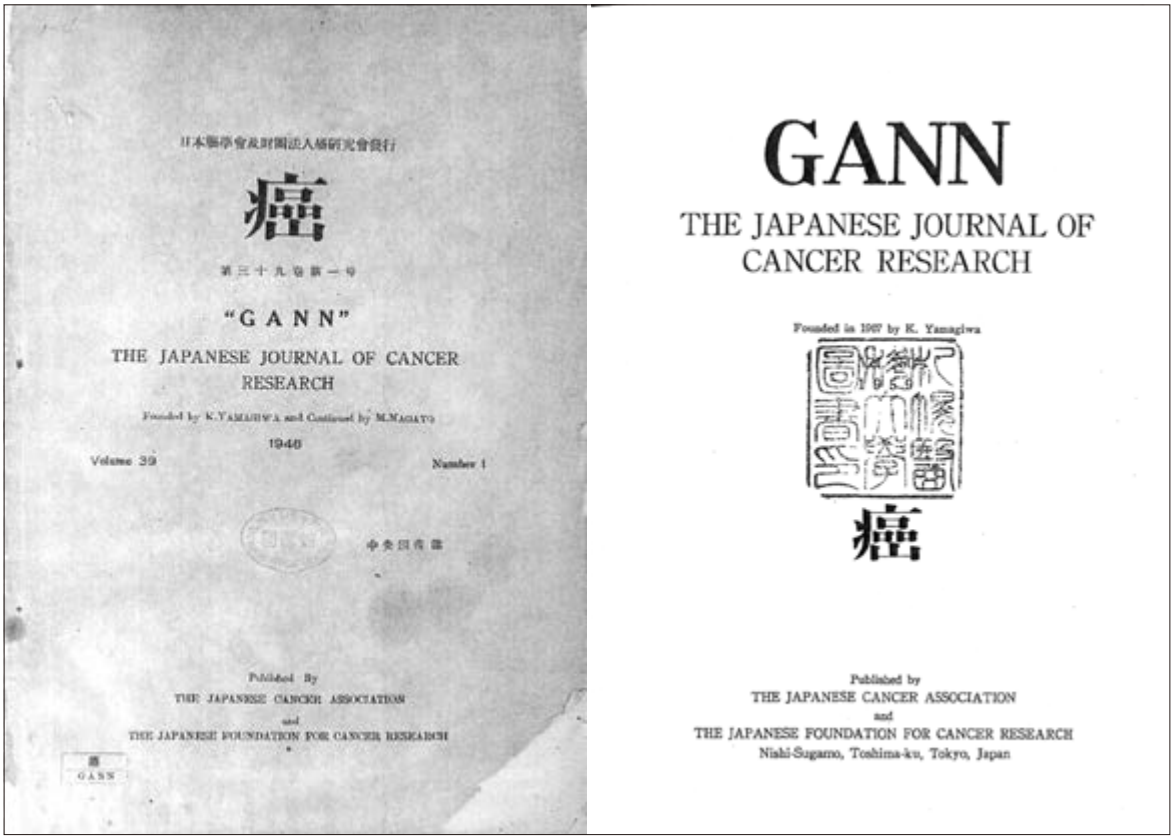


図 7

日本癌学会の学会誌の表紙

左：癌　第三十九巻　第一号　昭和二十三年　　右：GANN　50: 1 ～15, 1959.

口腔癌，中咽頭癌

oral cancer，oropharyngeal cancer

大上研二　東海大学教授・耳鼻咽喉科

I 口腔癌

病態と診断

A 病態

・口腔癌は頬粘膜，上歯肉，下歯肉，硬口蓋，舌，口腔底に分類されるが，口腔癌の半数以上は舌に発生し，次いで歯肉，口腔底，頬粘膜に多く発生する．病理組織学的には口腔癌の 90%以上が扁平上皮癌であり，残りは唾液腺由来の癌や肉腫である．

・中高年の男性に好発し，飲酒・喫煙や口腔内不衛生，不適合義歯などの機械的刺激などが誘因とさ

口腔の悪性腫瘍

malignant tumor of oral cavity

川又　均　獨協医科大学医学部主任教授・口腔外科学

病態と診断

A 病態

・口腔の悪性腫瘍の 80%以上は扁平上皮癌である．

・小唾液腺由来癌（腺様嚢胞癌，粘表皮癌など），肉腫（骨肉腫，悪性組織球腫など），悪性リンパ腫などもあるが，本項では扁平上皮癌を口腔癌として述べる．

・好発部位は舌であり約 60%を占める．

・危険因子は喫煙，飲酒である．

・上部消化管癌，肺癌が同時性，異時性に重複することが多い．

図 8

今日の治療指針 2016年版 文献 9）より引用

耳鼻科と口腔外科における口腔癌の説明

左：耳鼻科　右：口腔外科

3. がんの種類と名称

がんの名称は、一般的には発生した臓器、組織などにより分類されます。
ひらがなの「がん」は悪性腫瘍全体を示すときに用いられ、上皮細胞から発生するがんに限定するときは、漢字の「癌」という表現を用いることが多いようです。

■発生部位によるがん（悪性腫瘍）の分類

がん（悪性腫瘍）は、次の1）～3）に分類されます。まれに、1つの腫瘍の中に両者が混在する「癌肉腫」というものも発生します。発生頻度は、2）上皮細胞から発生するがんが80％以上を占め、圧倒的に多く発生します。

1）造血器から発生するがん

血液をつくる臓器である骨髄やリンパ節を造血器といいます。造血器から発生するがんには、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫等があります。

2）上皮細胞から発生するがん（上皮性腫瘍）

上皮を構成する細胞を上皮細胞といいます。上皮細胞から発生するがん（cancer, carcinoma）の代表的なものには、肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、子宮がん、卵巣がん、頭頸部のがん（喉頭がん、咽頭がん、舌がん等）があります。

3）非上皮性細胞から発生する肉腫

肉腫（sarcoma）は、骨や筋肉などの非上皮性細胞から発生するがんです。代表的な肉腫には、

図 9
国立がん研究センターのホームページ
がんの種類と名称
総て「がん」で表記されている．

日本医師会

全科が参加し不偏不党の立場を取っている日本医師会が発行した「がん診療update[8]」では，漢字の「癌」を一切用いず総て「がん」で統一している．従って，舌がん・肺がん・胃がん・卵巣がん・腎がん・..，がん性腹膜炎Peritonitis carcinomatosa と記載されている．すなわち「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」とは全く合致しない．

今日の治療指針 2016年版[9]

本書は，医学の各科が参加して執筆している．癌cancerも癌腫carcinomaの診断名である癌も総て「癌」が用いられている．

専門部位が重なる口腔癌を耳鼻咽喉科と口腔外科とがどのように記述しているかを比較する為に並べてみた（図8）．

耳鼻咽喉科は口腔癌（広義）は癌（狭義）＝癌腫と肉腫から成る事を明記しているが，口腔外科は口腔癌（広義）の使用を避けて「口腔の悪性腫瘍」とし，「扁平上皮癌を口腔癌として述べる」とする事で癌cancerの使用を巧みに避けている．不自然な表記であるが，口腔外科は「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」の立場をとっているからである．本書において口腔外科の定義は医学の中では例外的である．

国語辞典・医学用語辞典

広辞苑[11]の編纂には医学の専門家も少なからず参加しており医学用語が．医学分野の専門家にチェックされている．検索語「がん」で調べてみると，

がん【癌】①悪性腫瘍の総称。②特に、上皮性悪性腫瘍。→癌腫。③比喩的に、機構組織などで、取り除きがたい難点。

となっている．ここで，癌の説明が適切か不適切かは措く．述べたい事は，国語辞典では見出し語「がん」の下に「癌」が表記されているので，がん【癌】と併記される．「がん」と「癌」とで意味が異なるならば，両者を並べて，がん【癌】と表記する事自体が成立し得ないと言う事である．

医学用語辞典　検索語「がん」で，索引で当該頁を調べて「癌」に至る事，あるいはあいうえお順に並んだ「がん」から用語「癌」に至る事が出来るのは「がん」と「癌」とが同じ意味だからである．「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」の様に「がん」と「癌」は別物ではない．仮に別物ならば，検索語「がん」と「癌」は結びつかない．

国立がん研究センター

ホームページ　がん情報サービス「知っておきたいがんの基礎知識[12]」の中で3．がんの種類と名称が掲載されている（図9）．その中に「ひらがなの『がん』は悪性腫瘍全体を示すときに用いられ、上皮細胞から発生するがんに限定するときは漢字の『癌』という表現を用いる事が多いようです。」の文言が入っている．他人事の様な「多いようです。」の表現が奇妙であり，なぜこの文言を入れているのか理解出来ない．癌腫の診断名を肺癌・乳癌・胃癌・..ではなく，肺がん・乳がん・胃がん・..の様に癌腫にも平仮名の「がん」を用いているからであ

表２　日本癌学会で申合された悪性腫瘍の用語の基準

日本癌学会で申し合わされた悪性腫瘍の用語の規準

１）「癌」（がん）は一般に悪性腫瘍を代表する（癌腫，肉腫などを含めて）。

２）単語のはじめに「癌」があるときには一般に悪性腫瘍全体を意味する。

例）癌化・癌悪液質・癌反応など

特に癌腫・肉腫を指定するときには「腫」を入れる。

例）癌腫化・癌腫悪液質・肉腫化など

３）単語の中間に「癌」があるときも一般に悪性腫瘍全体を意味する。

例）発癌率・抗癌剤

４）単語の最後に「癌」があるときは癌腫を意味する。これは主として器官名・組織名などが冠せられるが，その他の形容詞が冠されても同様に癌腫を意味する。

例）子宮癌・扁平上皮癌・大細胞癌・硬癌・髄癌など

このさい「腫」をつけても差支えない。

〔付記〕血液癌・骨癌などの使用を避け，血液肉腫・骨肉腫とすることが望ましい。

５）肉腫を指定する場合には常に「腫」をつける。

例）骨肉腫・巨細胞肉腫など。

６）非悪性腫瘍あるいは癌腫・肉腫以外の -oma で終わつている腫瘍は「-腫」とする。

例）腺腫・骨腫など

７）腫瘍とよばれているものはいずれも「-腫」とする。

例）Grawitz 腫・Wilms 腫・Ewing 腫

文献14）より引用

表３　悪性腫瘍の用語使用基準申合せと悪性腫瘍の分類

表 9-2　腫瘍の命名法　（日本癌学会）

①癌，「ガン」は悪性腫瘍を総称する

②初めに「癌」のある単語は悪性腫瘍一般を意味する（例：癌化，癌悪液質など）

③中間に「癌」がある単語も一般悪性腫瘍を意味する（例：発癌率，抗癌剤など）

④以上の①，②，③で特に癌腫，肉腫を指定することが必要な時には，「癌」の代わりに癌腫，肉腫の語を挿入する（例：癌腫化，抗肉腫剤，肉腫形成など）

⑤単語の最後に「癌」がある時は癌腫を意味する．しかし癌腫としてもよい（例：子宮癌，扁平上皮癌，硬癌など）．肉腫を指定する時は必ず肉腫をつける（例：骨肉腫，小円形細胞肉腫など）

⑥良性腫瘍あるいは癌腫，肉腫以外-oma で終わる腫瘍はすべて「一腫」とする（例：骨腫，腺腫など）

⑦従来，慣用的に人名を冠した「一腫瘍」と呼ばれている腫瘍はいずれも「一腫」とする（例：Wilms 腫など）

表 9-3　癌，癌腫，肉腫の関係

	良性腫瘍	悪性腫瘍
上皮性腫瘍		癌腫
非上皮性腫瘍		肉腫

悪性腫瘍＝悪性新生物＝癌＝癌腫＋肉腫

文献16）より引用

る．これに関しては二回問合せをしたが，「当センターはすべて『がん』です。」の回答しか得られなかった．

朝日新聞の土曜日Beの「それぞれの最終楽章」欄に令和二年五月から六月に国立がん研究センターの清水　研先生による「がん患者の心」全八回が，九月から十月には国立がん研究センターの緩和医療科小嶋リベカ先生による「親としてのがん患者」全七回が掲載された．悪性腫瘍の総称も，癌腫も総て「がん」しか用いられていない．国立がん研究センターの「がん」の使用は，「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」に合致しない様である．

病理学の成書

「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」と定義する解明病理学［第３版］[2]と標準病理学　第６版[3]とを見出した．礼を尽くして定義の根拠を御教示願った積りであるが納得出来る回答は得られなかった．根拠は「がん」センターとは無関係の様である．

Ⅶ．考　　察

腫瘍は，良性腫瘍と悪性腫瘍とに分類され，後者は癌cancerと呼ばれる．癌（広義）は，上皮組織系細胞由来の癌腫carcinomaと非上皮組織系細胞由来の肉腫sarcomaとに分けられる．癌腫の診断名は舌癌・肺癌・胃癌・..の様に「臓器名＋癌」で，あるいは扁平上皮癌・腺癌・..の様に「組織名＋癌」で表記される．この際の癌は，悪性腫瘍の総称としての広義の癌に対し狭義の癌である．この説明は従前の日本癌学会の悪性腫瘍の用語使用基準申合せに基づくものである[13-16]（表２，３）．本来的には漢字「癌」であるが癌（がん）（表２）とも，あるいは癌，「ガン」（表３）とも記されているので平仮名，あるいは片仮名の表記も赦される様である．尚，日本癌学会にこの使用基準申合せが改められていればそれをお送り下さる様にお願いしたが，回答は無かった．更に日本癌治療学会　用語・ICD-11委員会[5]は，「癌」と「がん」との間に意味の違いは全く無く「がん，癌，cancerは同義」と記載している他に，癌幹細胞や癌検診の説明文の中で「がん」も用いられ，cancerにもcarcinomaにも共に「がん」をも使用している[5]ので，「悪性腫瘍の総称と癌腫とを平仮名と漢字とで書き分ける事」に否定的見解を示しているのであって，両者共に漢字だけ，あるいは両者共に仮名だけ，あるいは漢字と仮名を適宜交ぜて表記する事には異論は無いとしていると思われる．そうならば，表２，３の文言の「癌」を「がん」と書き換えても何ら意味の違いは生じない．事実一般社会向けに，悪性

腫瘍の総称にも癌腫にも「がん」と表記する事は日常的に認められる.

癌が悪性腫瘍cancerの意味で用いられたのは，遅くとも明治四十三年創刊の日本病理学会の学会誌が癌 → Gann → Japanese Journal of Cancer Research → Cancer Scienceとして今日まで続いている事（図７）から全く異論の無いところである．しかし，戦後に制限色の強い当用漢字による漢字施策が始まり，行政機関や公的性格の強い機関や義務教育において当用漢字の使用が徹底された結果「がん」が使用されたが，行政から独立していた医学は奇跡的に当用漢字以外の多数の漢字を医学用語として使い続けた．その為，筆者が学生であった昭和三十年代，更に四十年代・五十年代の医学書にも当然の事として「癌」が用いられていた．この為に医学では「癌」を，医学以外では「がん」を使用する「癌」と「がん」との二本立ての状態がしばらく続いたが，次第次第に医学で「がん」も用いられる様になった．恐らく，びらん・てんかん・うっ血・せん妄・．．等の様に難しい漢字は仮名書きする傾向と軌を一にしていると考えられる.

ところが行政機関のがんセンターは「癌」を使用出来ず初めから「がん」を用いてがんセンターとした．その事から「総ての悪性腫瘍を対象とするがんセンターが『がん』を用いているから、『がん』は悪性腫瘍の総称である。従って，悪性腫瘍の総称は平仮名で表記すべきである」と言う全く根拠の無い思いつきに端を発する「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」という主張が現れた．総ての悪性腫瘍を対象とするがんセンターが「がん」センターだから,「がん」は悪性腫瘍の総称であると考える事は誤りでない．しかし,「癌」も悪性腫瘍の総称であるから「癌」も「がん」も悪性腫瘍の総称なのだと結論づけるべきであった．ところが，悪性腫瘍の総称は「がん」だけと短絡的に結論を出した委員（A教授）の提言に依ったのであろうか，日本口腔腫瘍学会・日本口腔外科学会は「がん」と「癌」とでは意味が違い「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫の意味である」と言う独自の定義を設け，この定義に依って学会誌を編集している．編集委員会がこの定義に従って学会誌の編集を行えば，この定義が学会員に周知徹底される事は極めて容易である．Ⅱ．で述べた通り，当初多くの（元）教授がこの定義に肯定的回答を寄せて呉れた事は学会のこの定義の反映かも知れない．また，この様な状況下で学会活動をされていたが故にA元教授には「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」は「医学の慣用となっているのは間違いありません。」「医学的にも一般社会的にもこの様な使い分けをしている」と思えるのかもしれない．しかし，医学の慣用には断じてなっていない.

がんセンターばかりでなく行政の法令・文書の全てで「癌」の代わりに「がん」が用いられたものであり,「がん」に特別の意味が込められたのではなく悪性腫瘍の総称（広義の癌）にも癌腫（狭義の癌）にも「がん」が用いられたのである．従って，がんセンターの「がん」から導き出された「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」は明らかに間違いである.

更に病理学の成書[2, 3]でも三十年以上まえから仄聞されていた同じ定義が記載されているのを見出した.

「がん」と「癌」とで意味が異なるとするこの考えに対しては領域横断的学会と自他共に認める日本癌治療学会が早くから再三否定的見解を述べており，2013年のホームページ[5]ででも閲覧可能である.

日本癌学会・日本癌治療学会・日本頭頸部癌学会・日本肺癌学会・．．等はいずれも総ての悪性腫瘍を研究対象としている．学術誌「癌の臨床」「癌と化学療法」は総ての悪性腫瘍を網羅している．それにも拘わらず，もし仮に「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫を意味する」が正しい定義だとすれば，日本癌学会・日本癌治療学会・．．等は癌腫を研究対象とする学会と言う事になり,「癌の臨床」「癌と化学療法」は癌腫を研究対象とする学術誌と言う事になる．更に総ての悪性腫瘍を対象とする日本癌学会・日本癌治療学会・．．等は日本がん学会・日本がん治療学会・．．等と仮名書きに変更し,「癌の臨床」「癌と化学療法」は「がんの臨床」「がんと化学療法」と仮名書きに変更せねばならなくなる.

いくら何でもこんな馬鹿げた話は成り立ち得ない．これらの例からだけでも「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」は医学の常識から著しく逸脱している事が知られる．日本癌学会も日本癌治療学会も「癌」の用語は本来的に漢字を用いているが，日本語に漢字と仮名とで意味の異なる言葉は一つとして無い（強いて漢字と仮名で意味の異なるものを挙げれば，生物学では動植物の名は片仮名で書く為に，生物としての人はヒト，猿はサル，紋白蝶はモンシロチョウ，楓はカエデ,．．等の例があるが，これは生物学の決め事である.）為に，癌＝がん＝ガンとしている．これで何が不服なのでろうか．なぜ，平仮名の「がん」は悪性腫瘍の総称で，漢字の「癌」は癌腫とがんじがらめの定義を決める必要があるのだろうか．何の利点が有ると言うのであろうか.

学術の世界において一つの用語が多義的であってはならない．学問を論ずるには用語の定義は同一でなければならない．共通の言語で意見を交換する場だからである.

医学全体を俯瞰した場合，医学の中の小さな集団である日本口腔腫瘍学会・日本口腔外科学会が独自の定義を設けている事になる.

尚，同じく「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」とする病理学の成書[2, 3]に関しては，何故そう定義したのかは不明である.

「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」は，従前の日本癌

学会の悪性腫瘍の用語使用基準申合せ[13-16]（表２，３），並びに日本癌治療学会[5]の見解と異なる．定義の見直しが必要ではないだろうか．

看過出来ないので本稿を執筆した次第である．学兄各位の御批判を頂ければ幸いである．「がん」と「癌」が現在どう用いられているかの詳細については稿を改めて検討したい．

Ⅷ．結　　論

全国のがんセンターが「がん」センターである理由は，「癌」が当用漢字に含まれていなかった為に行政としては「がん」を選ばざるを得なかったからである．

対して行政から独立していた学会（学術の世界）は「癌」を守り通してきた．

それにも拘わらず，日本口腔腫瘍学会・日本口腔外科学会は学会として「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」と定義としている[1]．

「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」と定義する病理学の成書を二冊[2, 3]見出した．

何れも医学の中では例外的な特殊な定義である．

「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」の主張には何ら根拠の無い事を幾つかの具体的証拠に基づいて述べた．

Ⅸ．結　　語

日本口腔腫瘍学会･日本口腔外科学会は学会として「がんは悪性腫瘍の総称，癌は癌腫」と定義している[1]が，この定義は，医学全体を俯瞰した場合には極めて特殊で，悪性腫瘍を論じる際の共通言語とは著しくかけ離れていると思われる．従って，定義の見直しが必要ではないかと考えられる．

文　　献

１）口腔癌診療ガイドライン改訂合同委員会　日本口腔腫瘍学会/日本口腔外科学会　編：口腔癌診療ガイドライン　2019年版，第２章　疫学，13頁．金原出版，2019年10月．

２）加藤光保：第７章　腫瘍，腫瘍とがん：用語の基本．青笹克之　総編集　加藤光保，菅野祐幸　編集：解明　病理学［第３版］，172頁．医歯薬出版，2017年10月．

３）橋本優子：第９章　腫瘍，Ａ定義と分類　①腫瘍・がん・悪性新生物：用語の定義．北川昌伸，仁木利郎　編集：標準病理学，第６版第１刷，248頁．医学書院，2019年３月．

４）日本癌治療学会　癌の治療に関する合同委員会　癌規約総論委員会　編：日本癌治療学会・癌規約総論（略称　癌治規約総論），Ⅳ．用語集　2 がん，癌，癌腫，cancer，carcinoma，61－62頁．金原出版，1991年10月．

５）日本癌治療学会：ホームページ　用語集の改訂について．一般社団法人日本癌治療学会　用語・ICD-11委員会　用語集（2013年版），がん，癌，癌腫（cancer）/癌幹細胞（cancer stem cells）/癌検診（screening for cancer）．

６）藤田浄秀，座間正和：漢数字と算用数字との誤用と混乱　―医学分野の論文・学術書における危機―．横浜医学，**70**：83－92, 2019.

７）藤田浄秀，座間正和：医学の学術論文・学術書における漢字　その一．漢字の正しい字体について．横浜医学，**70**：657－666, 2019.

８）日本医師会：日本医師会雑誌　第138巻・特別号（１）生涯教育シリーズ―76，がん診療update，平成21年６月．

９）山口　徹，北原光夫　監修：今日の治療指針 2016年版，口腔癌，中咽頭癌/口腔の悪性腫瘍，1534頁/1572頁．医学書院，2016年１月．

10）白川　静：『桂東雑記Ⅲ』（抜粋）．松岡正剛：白川静　漢字の世界観，初版第４刷，241－242頁．平凡社新書，平凡社，2009年２月．

11）新村　出　編：広辞苑，第七版　並びに付録，一刷，がん【癌】/当用漢字と常用漢字，647頁/付録245－246頁．岩波書店，二〇一八年一月．

12）国立がん研究センター：ホームページ　がん情報サービス　知っておきたいがんの基礎知識　3．がんの種類と名称．

13）武田勝男　編：新病理学総論．第13版７刷，第12章　腫瘍　Ⅱ，腫瘍の一般的性状による分類と命名，402－403頁．南山堂，1986年２月．

14）影山圭三　編集：病理学，第４版第１刷，7．腫瘍　C．腫瘍の分類，56頁．医学書院，1989年７月．

15）福西　亮，植田規史，森　浩志：Ⅸ．腫瘍総論，Ｂ腫瘍の分類と命名法，3．悪性腫瘍の命名法．横山武，福西　亮，綿貫　勤，嘉納　勇　編集：現代の病理学　総論，改訂第２版増補第５刷，351頁．金原出版，1994年２月．

16）坂本穆彦：第９章 腫瘍 Ａ定義と分類 ５癌腫と肉腫．坂本穆彦監修，北川昌伸，仁木利朗　編集：標準病理学，第５版第１刷，253頁．医学書院，2015年３月．